

● 顕現後第二主日

泉のほとり

今月の詩編「第五十二編」

方ある者と、なぜ悪事を誇るのか。

神の慈しみの絶えることはないが

お前の考えることは破滅をもたらす。

舌は刃物のように鋭く、人を欺く。



私から離れてください

キリストがゲネサレト湖畔に立っておられると、神のことばを聞く人と人々が押し寄せてきました。まだ弟子は一人もいなかったと思われる初めの頃、キリストはお一人で、押し寄せてくる大勢の人たちを相手にしなければならなかったのだと思います。

そこでキリストの目に止まったのは舟でした。漁師たちは網の手入れをしていました。主は二そのの舟のうち、シモン・ペテロの舟に乗り、岸から少し漕ぎ出すようにと頼まれました。そうして舟の上から陸地にいる群衆に向かって教え始められたのです。

大勢の人が舟に乗られたイエスさまの話をお聞いている中で、その舟にはペテロがすぐ横で主の話を聞いているのです。神の国、人の罪、立ち返るべき人の姿をお語りになる、その一つ一つのことばを心深く受け止めているペテロを想像するのです。

話し終えると、主は「沖に漕ぎ出して網を降ろして、漁をしなさい」と言われました。ペテロは「先生、夜通し苦勞しましたが、何も捕れませんでした」と言うのです。しかし心深く受け止めたイエスさまの教えに対する敬意を表したのでしょうか、ペテロは「おことばですから、網を降ろしてみます」と答えました。網を下ろすと、夜通し何も捕れなかったのが嘘であったかのように、網が破れそうほどの魚がかりました。仲間舟に合図をして助けに来てもらいました。「二そのの舟が魚でいっぱいになり、なんと舟が沈みそうでした。捕れた魚を湖に放さなければならぬほど、魚が捕れたのです。その時、突然、ペテロはイエスさまの足もとにひれ伏して言

いました。「主よ、私から離れてください。私は罪深い者です」と。

夜通し、何度網を降ろしたことでしょうか。しかし今は目の前に魚で二そのの舟がいっぱいになっているのです。普通、こういう場面で「私から離れて

ください。私は罪深い者です」と言う人はいません。むしろ人々の目にはイエスさまが金の卵を産む鶏のように見えると思うのです。そしてその願いは「離れないでください」となるのではないのでしょうか。一緒にいてくださるともう魚の心配はなく、夜通し苦勞することも無い、生活には困らないなど、自分の利得を考えると思うのです。パン五つと魚二匹で五千人を食わせるられた出来事に満腹した群衆の中には、ペテロのように「私から離れてください。罪深い者です」という心でキリストに近づくと、人もいなくなったことを思い起こします。

新しい年になりました。世界中の人々がそれぞれ自分の願いをお祈りするのです。その願いは、商売の繁盛、この世においての自分の名声、成功、お金の子供の進学、就職、広い家、楽な生活などでしょうか。しかし、これらどれも「魚」以上のものではありません。魚を与えられたのも神さま、キリストです。ペテロは捕れた魚ではなく、目の前におられるキリストにひれ伏しました。魚ではなく、キリストの前で自分は何と汚らわしく、罪深い者であるか、と見て、恐れていたのです。ペテロのような人は、今の時代にも見つけられないのではないのでしょうか。集まった大勢の人々を湖のほとりに残して、キリストは「今」、ペテロの舟にお乗りになつてい

ることを思います。キリストはペテロのような心の貧しい者を探し、見つけ出すために来られました。そのたましいの飢えと渇きを満たして下さるために来てくださったのです。

新年、飯の宿であるこの短い人生、私たちは何を追い求めて生きましょうか。「魚」でしょうか。もはや捕れた魚には目もくれず、恐れ、ひれ伏すペテロ。ペテロの神、キリストの前での貧しさを知恵として学びたいものです。

展 望

アーメン（頁末に）。

テモテへの手紙② 四章一八節

あなたが

すべての中のすべてであることを

お望みになるとき、

あらゆる石は満たされるでしょう、

あなたの光によつて。

そしてあらゆる切り株は癒えるでしょう、

あなたの命によつて。

そしてわたしも

感謝でいっぱいになるでしょう。

「さようなら、優れたよき兄弟よ、神がもし望まれて、君が私より長く生きるなら、君は我々の親しい友情を覚えて生きてくれ。それは、教

会にとつて有益であつたように、天における我々にも実をもたらしてくれるだろう」と、カルヴァンは一五六四年五月二日、フアレルに書き送つた。五月七日の夜八時、カルヴァンはじくなつた。

R・ポーレン著 「祈る」より

祈りは楠原博行氏の訳による

今日のお知らせ

○明日まで、各保育室に園児の作品が展示されています。どうぞご覧ください。

○第一礼拝後、ロビーでのコーヒースタンド、花嫁控え室では、「ぶどうの会」が開かれます。

○第二礼拝後、ホールで讃美と報告の後、役員会より、奉仕についての報告と呼びかけがなされます。お戻はお弁当です。

○吉村牧師は、湘南基督教墓苑組合の実行委員会に陪席のため、第一礼拝後、二宮教会へ行きます。

○吉村牧師は、明日二一日、二四日に鶴野市で行われる説教壇のリトリートに参加のため出張します。

○二六日（土）朝一〇時から、バザーの本部委員会を牧師室で行います。本部委員はご参加ください。

○二六日（土）午後二時から、礼拝堂で、藤本敬三兄のバリトン・リサイタルがあります。チケットをお求めの方は事務所まで。

○四月二二日のイースター礼拝で、受洗・転入会をご希望の方は、入信記を書いて、一月二七日までに、牧師あてご提出ください。

四国使り

初めてお訪ねする教会の少し手前で私を待つておられたのか一人の女性が「先生！」と走り寄ってすぐに「お疲れ様でございました」と荷物を受け取って下さいました。この時、私は「この人は主からの特別訓練を受けて磨かれています」とうれしく思いましたが、私達はすぐに御霊の一致を感じ喜びました。三人の女性牧師と同室でしたがここにも主のご配慮による御霊の一致に私達は初めて会っているにもかかわらず心が平安と喜びに満たされた六日間でした。男性の牧師先生達もとても謙遜で信仰の熱い人達でした。朝六時から早天祈祷会に始まりお食事後には研修会やナイトセルの見学ミツションセルリーダーの見学、ラビングケアグループの見学会、重要な学びはT先生のご指導による研修会・近隣の教会を訪問・メントリング子育てセミナーの研修（私はこの学びでこれまで心に一つだけ有る疑問の部分の謎が見事に解けた事は驚きであり、主の聖名を喜び讃えました。

毎 日T先生と籍の楽しいランチタイムの談笑の中にも私達は大切なことを学んでおりました。「聖戦をふれよ、勇士たちよ立て」この賛美をしている間に私を第二テモテ一章三〜四節と十五節の御言葉で召命をかけて下さった主を思い起こし敬かな気持ちの覚悟と信仰が与えられました。

帰りの日に私達の宿舎エレベーターの無い三階にT先生が来られ「州端先生の荷物には私が一階まで運びます」とのお言葉には恐れ多くて、階段がありますのでゆっくり運んでゆきますと申し上げたときはもうT先生のお姿は見えませんでした。「ヨシユアの如く生きん」この一冊の本がアガペーの愛を実践し、活動しておられる神の教会へと導いて下さり尊い学びを豊かに与えて下さいました。私の教会観を根本的に見直さなければと主にお誓いしました。主の聖名を喜び讃えます。

二〇一八年十二月十八日

シオン・フルゴスベルチャーチ

田 端良恵

聖書の会へどうぞ

1月23日(水)

●朝の聖書の会(10時)

「洗礼を受けた神の子」

マルコ一章9節〜11節

菊池美穂子 副牧師

●聖書の夕べ(19時)

「ケファと呼ぶ」

ヨハネ一章35節〜42節

黄允澁 副牧師

次週礼拝

●第一礼拝(午前9時30分)

讚美歌 今日もまた新しく 121番

説教 「世の終わりが来る」

聖書 ルカ21章1〜9節

説教者 吉村和雄 牧師

●第二礼拝(午前11時10分)

讚美歌 90番 279番

詩篇 52篇

説教 「恐れるべきは神」

聖書 マタイ10章24〜33節

説教者 黄允澁 副牧師



第一礼拝 (午前9時30分)

讃美歌 今日もまた新しく

1 2 1 番

説教 「この人はヨセフの子ではないか」

聖書 ルカ4章16節～30節(新約 P107)

司式 森洋之兄 聖餐司式 吉村和雄 牧師

説教者 黄允澁 副牧師

前奏曲「神のみ子は来たりたもう」 J.S.バッハ

○「今日もまた新しく」 聖公会讃美歌16番

1. 今日もまた新しく 鳥 歌い 喜ぶ
み言葉に生かされて たたえよう この日を
2. 草木にも 恵み満ち 雨露の 輝き
神の 闢しのぼせる たたえよう この日を
3. ひとすじの 光より 生まれでる この朝
声高く ほめ歌え み手による この朝

アーメン

○教会学校生徒による讃美

「小さなひつじかい」

○ピアノによる讃美

「天使の夢」 A.ドビュッシー

○讃美歌 1 2 1 番

1. 馬槽のなかに うぶごえあげ
木上の家に ひととなりて
貧しきうれい 生くるなやみ
つぶさになめし この人を見よ
2. 食するひまも うちわすれて
しいたげられし ひとをたずね
友なきものの 友となりて
こころくだきし この人を見よ
3. すべてのものを あたえしすえ
死のほかなにも むくいられで
十字架のうえに あげられつつ
敵をゆるしし この人を見よ
4. この人を見よ この人にぞ
こよなき愛は あらわれたる
この人を見よ この人こそ

第二礼拝 (午前11時10分)

讃美歌 2番 3 3 3 番

詩篇 第52編(旧約 P886)

説教 「言い訳のできない人の罪」

聖書 ローマ3章9節～20節(新約 P276)

司式 森洋之兄

説教者・聖餐司式 吉村和雄 牧師

前奏曲「たえにうるわしき」 J.S.バッハ

○讃美歌 2 番

○ピアノによる讃美

「天使の夢」 A.ドビュッシー

○聖歌隊による讃美

「あめなる喜び」

あめなるよろこび、こよなき愛を たずさえくだれる
わが君イエスよ すくいの恵を あらわに示し
いやしきこの身に やどらせたまえ

いのちをあたうる 主よとどまりて われらの心を
とこ宮となし あしたにゆうべに いのちをささげ
たたえのうたをば うたわせたまえ

われらをあらたに 創りきよめて さかえにさかえを
いや増しくわえ みくににのぼりて みまえに伏す日
みかおのひかりを 映させたまえ

○讃美歌 3 3 3 番

聖餐曲「イエス・キリストよ、汝をあがめまつらん」

G.バーン

後奏曲「前奏曲とフーガ変ロ長調」 J.S.バッハ

聖餐曲「主の愛」 D.ワグネル

後奏曲「前奏曲とフーガ変ロ長調」 J.S.バッハ